

汚染水処理できないなかでベースロード電源議論はできない 市長が「エネルギー基本計画」(案)で見解示す



3月議会の一般質問、私は24日に登壇し、原発政策、医療政策、市町村合併について市長に質問しました。村山市長との主なやり取りの大意をお知らせします。

【橋爪】政府、経済産業省は先月25日、「エネルギー基本計画案」をまとめ、この中で、原発を「重要なベースロード電源」と位置づけた。この位置づけをどう考えているか。

【村山市長】どういう状況の中で原子力の電源を活用するか。これだけの被害を受けて、汚染水についてまだ処理できていない、どういう原因でどういう対処をするか、この対策についてきちっとした議論がない中で、そういう議論というのは、いくらベースロード電源にふさわしいものとしたとしても出てこないものだし、出てくるはずがないと思っている。

【橋爪】新潟県が2月3日に発表した「原子力災害に備えた新潟県広域避難の行動指針案」の評価と今後の対策について、どう考えるか。

【市長】私としては、国や県そして関係市町村が、長い時間を掛けてすり合わせをしてきた中で出された行動指針であり、今後、具体的な検討を積み上げていくうえで、しっかりとした柱が立ったものと、一定の評価をしている。私自身は、県に対して、今後、指針のバージョンアップを図る中で、避難の判断基準やスクリーニングポ

イント、モニタリングなどの安全に関わる部分だけではなく、安心という部分を市民に訴えていくことが必要であると申し上げた。

【橋爪】原発事故が雪の多い時期に発生したり、地震災害に伴う事故であったりした場合、果たして逃げられるか問題だ。そういうことを考えたなら、「しっかりと柱が立った」というのは過大評価ではないか。

【市長】バージョン1(今回の案)づくりで課題はほとんど整理された。冬場、どうやって逃げるか、バスをどうやって手配するかなど、どうやったら具体的にやるか、その作業は今後、バージョン2、バージョン3で県が進化させていくものと思う。その意味で私は「柱が立った」と言った。

診療所は命と健康守る拠点

【橋爪】市内の医療スタッフの現状はどうなっているか。

【市長】人口10万人当たりの人数で比較した場合、医師数については、全国平均が230.4人、県平均が191.2人に対し、本市が174.6人であり、歯科医師数では、全国平均が79.3人、県平均が90.3人に対し、本市が62.8人、また、薬剤師数は、全国平均が215.9人、県平均が169.2人に対し、本市が158.9人となっており、いずれも国・県の平均を下回っている。一方、就業看護師数は、本市が全国や県の平均を上回っているが、病院現場においては看護師が不足している状況だ。

【橋爪】市立診療所のあり方については廃止を含めて検討が始まっているとのことだが、いつ



【紅梅】バラ科サクラ属の小高木。木に咲くピンク色の花としては、この花が一番早いのではないのでしょうか。写真は吉川区総合事務所のそばで撮影。

たい、どういう視点で検討されていて、どこまで来ているのか、どういう方向に持って行こうとされているのか。

【市長】各診療所は、中山間地域における市民の拠り所として、医療のみならず、健康やかな暮らしを支える上で重要な役割を担っているものと認識している。将来を見据えると、後継者の確保対策が今後の課題だ。診療所に勤務いただいている医師の皆さんは、地域医療に対する熱意と地域に貢献したいという強い思いをお持ちの方々が、24時間、365日、一人で診療所を支えていることは大きな負担であると考えていることから、上越地域医療センター病院との病・診療連携体制も視野に入れながら、診療所の安定的な維持が図られるよう検討してまいりたい。



映画「渡されたバトン—さよなら原発」が4月5日、リージョンプラザで上映されます。この映画は旧巻町の原発反対運動をもとに制作されたもの。原発をゼロにしていくうえで元気がもらえます。上映時間は午前10時、午後2時、午後6時の3回。入場料は予約券で1000円です。申し込みは橋爪の携帯電話までお願いします。

橋爪のりかずの
市政レポート

NO 1650
2014.3.30

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
Tel 025-548-3628 (吉川有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp

留守が多くなっています。遠慮なく橋爪法一の携帯電話へ
090-5392-1961

もう何十年も前のこと、学校から家に帰ると、外は真つ暗なのに家には母がいないということが何度もありました。切なくなつて、畑や田んぼなどへさがしに行き、母を見つけると、「かーちや、早くきなーい」と呼びかけたものでした。

先週の月曜日、子どもの頃のこの記憶を呼び戻すようなことが起きました。この日はちょうど私の誕生日、私は市役所をいつもよりも早く出て家に戻りました。この日

にあるはずの母の三輪自転車がありません。いうまでもなく、家の電気も点いていませんでした。まだ完全に日が沈んでいなかったものの、急速に暗くなる時間帯、母はどこに居るのだろうと心配になりました。たぶん、フキノトウを採りに出かけているに違いない、そう思った私は再び軽乗用車に乗って、母をさがし始めました。

最初に出かけたのは、集落のはずれにある田んぼです。だいたい前に、この田んぼの畦やすぐそばにある川の堤防でフキノトウをさがしたことがありました。母が春先に栗を見つけたことのある場所もこの田んぼの先でした。農道をゆっくり走りながら、母の三輪自転車をさがしました。母は山菜採りでも笹の葉採りでも、道の端に自転車を止め、そこから現場に歩いて行くのが常でしたから、自転車は母をさがすときの目印になっていたのです。

田んぼは十数枚あります。遠くから見た時、そのなかの一枚にしゃがんでフキノトウ採りをしている母のような姿が見えました。でも近づいてみると完全に見間違いました。それは白い肥料だったのです。がっかりしました。母の三輪自転車はここで見つかりませんでした。

となれば、上の方に違いはない。今度は吉川の上流に向かいました。わが家からは二キロほどのところですが、ここは田んぼではなくて、川の土手です。従姉から、「おまんのばちや、よく採りに来ている」と聞いていた場所です。しかし、ここでも母の三輪自転車は見当たりませんでした。

さがしはじめて三〇分近く経つたでしょうか。日が落ちて、辺りはすっかり暗くなっていました。こうなると、不安が募つてきます。頭の中にある動脈瘤が破裂して、倒れていないか。うっかり足を滑らせて、川に落ちなかつたらどうか。最悪のとばかり考えてしまいます。従姉のところにも電話を入れてみました。従姉の家に上がり込んでお茶飲みしている可能性もあったからです。でも、いませんでした。

もう一度、軽乗用車に乗り込み、吉川の支流、平等寺川沿いの田んぼやひと山越えたところにある田んぼへも行ってみました。どちらにも母の三輪自転車はなく、もうこれまでと観念して家に戻りました。そうしたら、どうでしょう、いつもの自転車置き場に母の三輪自転車があるではありませんか。

家に入ると母はけろつとした顔をして、「おまん、おれをさがしていたかと」と言います。従姉と話をしたのでしよう。「そうだこてね。なしてたがだね、こんが暗くなつて」と訊いたら、何と、大出口川の上流まで三輪自転車を出かけていたというのです。私さがした場所とは方向違いでした。そして母は、廊下から米袋を引いてきて、「ほら」といった感じで見せてくれました。思っていた通りでした。中にはフキノトウがずっぱり入っていたのです。母はこの二七日で満九〇歳になりました。

必要な人に十分かどうか問題

タクシー利用料金等助成事業

日本共産党の平良木議員は先の市議会厚生常任委員会でタクシー利用料金助成事業に関して発言、利用料金助成額の増額を求めました。

これに対して市側は、「利用実態を把握するため、調査を行ったが、すべてを使いきった人の割合は、合併前上越市で47.4%、13区でも50%

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	3月19日(水)	3月26日(水)
上越南消防署	0.033	0.040
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.050	0.053
頸北消防署	0.043	0.046
頸南消防署	0.037	0.033
東頸消防署	0.060	0.050
高士分遣所	0.047	0.047
名立分遣所	0.047	0.043

未満だった。使い方に地域差があるとはいえ、増額は難しい」と答えました。

平良木議員はこの答弁に納得せず、「実際に必要な人に

十分手立てがとられているかどうか」と追及しました。日本共産党議員団には、これまで、実際は足りないという声が多く届いており、今後、独自に調査を進めたいと、市側に働きかけをしていく考えです。利用者のみならず、皆さんの声をお聞かせください。

議会報告とお花見のつどい

4月6日(日) 14時から

頸城希望館第3会議室ほか

竹島県議、私、上野議員が報告します。お花見参加者は会費1000円。

私の5冊目の随想集、『背中かき』（北越出版、1000円）の発行日が4月1日と正式に決まりました。

今回の本には、タイトルとなった「背中かき」や「雪椿」など60編の随想が入っています。

市内の書店には4月上旬に出る予定です。ぜひ、お求めください。私の携帯（090-5392-1961）に直接注文して下さってもけっこうです。ご自宅にお届けします。



背中かき

橋爪法一

多忙な日々のなかでも、身の回りのできごとに確かめて優しいまなざしを向けて綴ったエッセイ集。

雪国の自然が培った優しさは、しなやかな強さでもある。